

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート レポート

*2015年12月末までの訪問で被災地支援の演奏は、11年4月から通算184回となりました。

< 第31号 >

2015年12月

発行：(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

9月4日

原発から17km避難指示解除準備区域^{おだか}「小高」で初めてのコンサート 南相馬の名刹「同慶寺」にフラスのサウンドが

杉並区と災害相互協定を結んでいる福島県南相馬市には、この4年半で何回も訪れていますが、原発から20km圏内の避難指示区域でコンサートを行ったのは今回がはじめてです。

9月4日に南相馬市小高（おだか）地区の同慶寺で金管五重奏のコンサートを行いました。原発から17kmに位置することのお寺は避難指示解除準備区域に指定されていて、現在日中のみの立ち入りが許されています。9割以上の檀家さんが避難生活を余儀なくされています。



同慶寺は相馬家の菩提寺、代々の殿様のお墓も立派、木立も立派です。案内板によると「相馬家は源頼朝から領地を受けて以来連綿として本領を守り、その家系治績は明らかであり墳墓もここにある。このことは、中近世史あるいは地方史研究上重要な資料であり、相馬氏霊堂には明治に至るまでの藩主とその一族137の位牌が安置されている。」とあります。2015年新年のテレビ番組「行く年来る年」にも登場しました。

ご住職の田中徳雲さんは、檀家さんの住む仮設住宅や借り上げ住宅を一軒一軒まわり、本堂で行われるコンサートへの案内を行いました。震災前は3世代4世代が同居する自然豊かな理想的な環境だった小高。それが原発事故で根こそぎ一変しました。

この日は原町第一中学校の生徒や檀家の方が集まり楽しいコンサートとなりました。金管五重奏のメンバーはトランペット：橋本洋、松井亜希（賛助）、ホルン：小山桜（賛助）、トロンボーン：岸良開城、チューバ：西口学（賛助）の5名。演奏曲目はレナード・バーンスタイン：ウエスト・サイド・ストーリーより「マリア」や「トゥナイト」など。お寺に華やかなフラスのサウンドが響きました。

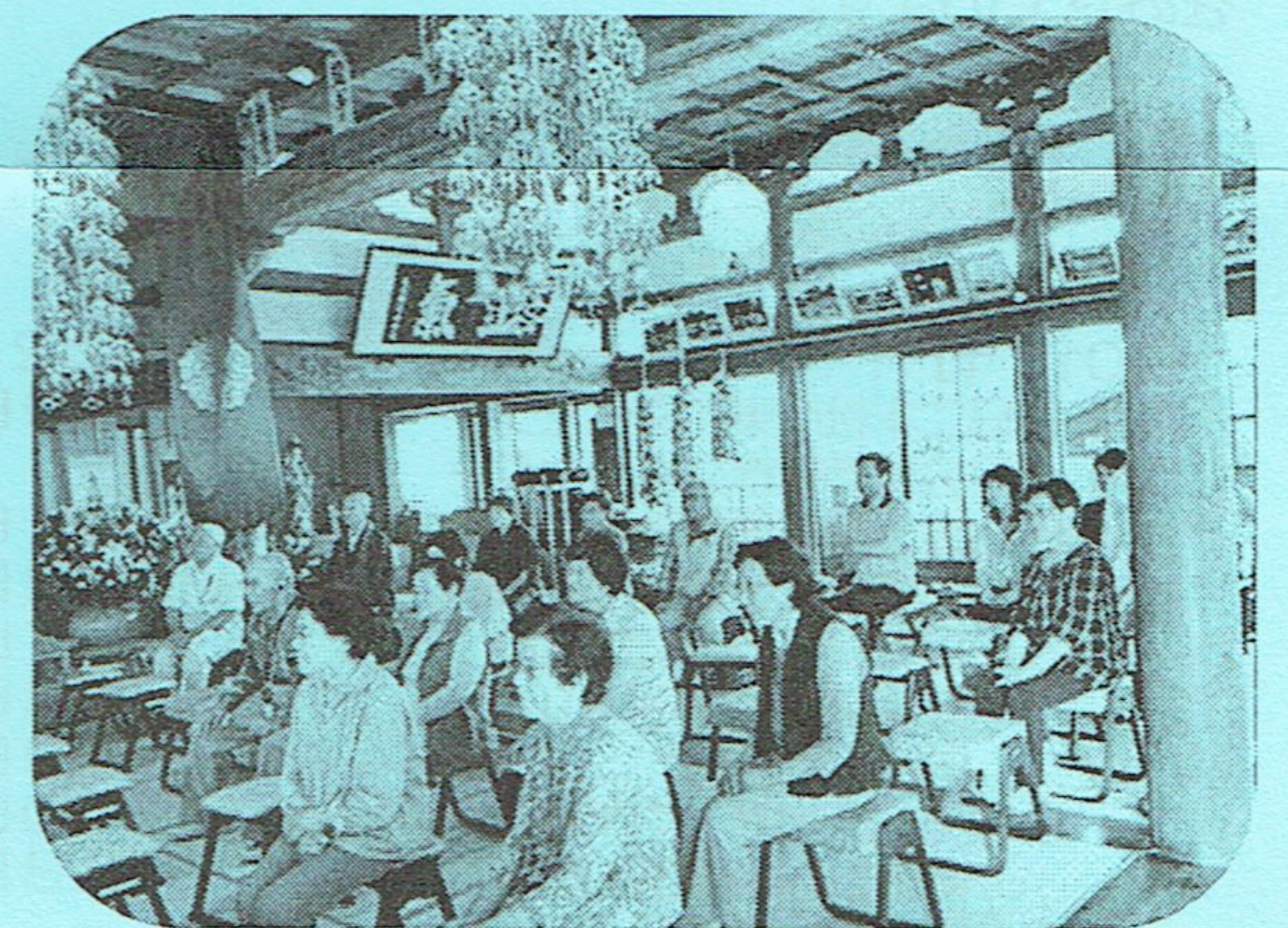
「私たちは被災者であると同時に支援者。新たな役割に目覚めよう。」(住職のことば)

目に見えない放射能汚染から家や故郷を捨てざるを得なかった苦悩の中にある小高の方々。

以下はご住職のメモです。

「今4年5ヶ月が経ちましたが、現状はあれ以来常に極限状態です。原発避難は長期的になればなるほど複雑化していきます。中でも心の問題や人権問題は目に見えない問題です。

私たちは受け入れ難い厳しい現実の中で一時は途方にくれましたが立ち上がり宿命とも言える現実を受け入れ、自分の限界を超えて歩み始めています。被災者、被害者であると同時に支援者にもなり、新たな自分の役割に目覚めて生きようとしています。大切なのは母なる地球とすべての命。すべての命は皆平等です。社会や自身の限界を超えて、そして和合と融合の中に人類全体が進化する時だと思えます。」と仏教徒らしい卓越した思想のもと、地域の人々とともに暮らしています。



9月5日&6日

初の試み がんばる子供たちの演奏を聴こう 南相馬「響きあうフラス&コーラスコンサート」



翌日9月5日は南相馬市民文化会館（ゆめはっと）で、原町第一中学校と原高等学校の吹奏楽部のクリニック。翌日のフェスティバルに備えました。時間をかけてしっかり指導しました。

9月6日は「響きあうフラス&コーラスコンサート」。南相馬市内の学校で昨年全国大会に出場した吹奏楽部を招待して、市民のみなさんに子どもたちの優れた演奏に親しんでもらう、という南相馬市スポーツ文化課の企画です。原一中、原高校以外に Seeds+というマーチングバンドも参加しました。日本フィル金管五重奏はゲスト出演。「ウエスト・サイド・ストーリー」より名曲の数々をたっぷり演奏しました。

